

## 過去のニュース(2010年4月～6月)



6月22日(火)  
「うんか送り」

矢田区で五穀豊穡を願う行事「おんか送り」が行われました。実盛の人形と「フウフ」と呼ばれる鳥の人形を先頭に、字役員や氏子、子どもら約100人がホラ貝と太鼓の音に合わせて、矢田川沿いを練り歩きました。



6月20日(日)  
「ウミガメさん 海岸をきれいにしたよ」

榎戸子ども会の5・6年生や保護者など約300人が榎戸区の海岸清掃をしました。呼びかけで榎戸区役員や鬼崎南小学校の教職員らも加わり、30分ほどでゴミ袋300枚分のゴミが集まりました。子ども会会長の伊藤紫乃さんは「地元の人から、以前はこの海岸にもウミガメが産卵に来ていたと聞いた。活動を続けることで、ウミガメが戻ってきてくれたら」と話しました。



6月18日(金)  
「地元食材を使った給食を楽しむ」

6月の食育月間に合わせ、市長や教育長などが三和小学校を訪れ、児童たちと一緒に県内産の食材などを使った給食を味わいました。この日の献立は「きしめん、煮味噌、きなことごまの2色団子」。市長と児童たちは「ダイコンやニンジンが県内産。牛乳は地元の矢田で作っているんだよ。」などと会話を楽しみながら、給食に舌鼓を打ちました。



6月17日(木)・18日(金)  
「干支内覧会」

正月の縁起ものとして知られる常滑焼の干支。早くも来年の「卯」をかたどった、干支の置物の内覧会が陶磁器会館でありました。毎年、陶磁器卸商業協同組合が市内の卸業者向けに開いており、今年で28回目。今年は昨年より1社多い11社から、常滑焼らしい朱泥製品のほか、きれいに彩色を施した製品139点が展示されました。



## 6月15日(火) 「両陛下、知多半島を御視察」

天皇、皇后両陛下が、知多半島を訪れ、愛知健康の森(東浦町)や新美南吉記念館(半田市)などを視察されました。市長、議長は、空路で帰京する両陛下を中部国際空港でお出迎えし、あいさつをしました。



## 6月13日(日) 「梅雨を彩るアジサイ」

常滑浄化センターの外周に植えられたアジサイが見ごろを迎えました。平成15年から「明るい社会づくり運動 知多地区推進協議会常滑地域」のメンバーが中心となり植え始め、今では約3000株がきれいな花を咲かせています。この日も、朝早くから同会の18人が除草作業や手入れを行い、合間にしばし手を休めて、色鮮やかな花を楽しみました。



## 6月13日(日) 「たいまつづくり」

矢田集落センターで、矢田区民など約200人が「虫送り」行事に使う、「たいまつ」を作りました。「虫送り」は松明の火に集まる稲の害虫を退治し、追い払う儀式で、「尾張の虫送り行事」として県指定無形民俗文化財にも指定されています。この日は矢田区民のほか、市内の行事などを体験学習する「わがまちふるさと体験隊」のメンバーも参加し、麦わらなどを使って長さ約2メートルのたいまつを約200本作りました。今年の虫送りは7月3日(土)午後7時ごろから矢田川沿いで行われます。



## 6月12日(土) 「鬼崎北小学校ふれあい学級」

地域で活動する人たちがボランティアで講師となり、授業を行う「ふれあい学級」が鬼崎北小学校で開かれました。和楽器や鳴子おどり、防災の炊き出し体験、おこしものなどの授業が行われ、保護者とともに楽しみました。



### 6月4日(金) 「アカモク もぐもぐ食べてね」

市内小・中学校の給食に、常滑沖で採れた海藻「アカモク」を使った献立が初めて登場しました。商品開発を担当した空港株式会社の伊藤淳一さんは、鬼崎北小学校の3・4年生のクラスを訪れ、「アカモクは健康にいい。みんなたくさん食べてください。」と説明。児童らは、お味噌汁に入ったアカモクを探しながら楽しそうに食べていました。



### 6月3日(木) 「急須で入れるお茶は格別」

市内の小学校で、常滑焼の急須を使いお茶を入れる授業が行われました。急須作家ら14人が「急須で入れるお茶のおいしさを知ってもらい、家庭でも楽しんでほしい」と企画したところ、市内の事業者などから道具や和菓子などの提供があり実現したもの。この日は常滑東小学校の5年生が、お茶インストラクターから入れ方を教わり、色・味の異なる2種類のお茶を楽しみました。



### 5月31日(月) 「田植えを体験」

矢田字打越地内で三和東・常滑幼稚園の園児と保護者ら約100人が田植えをしました。「子どもたちに田植えを体験してほしい」と矢田生産組合が平成3年から毎年実施しており、今年で20回目。園児らは一列に並び、糸の目印を頼りに、もち米「十五夜」の苗を植えました。10月ごろに稲刈りをし、12月に収穫したもち米を使って、園で餅つきを行う予定です。



### 5月30日(日) 「坂井区防災運動会」

好天の中、坂井農村公園で「第3回坂井区民総ぐるみ防災運動会」が開かれました。区民に防災意識を高めてもらおうと、従来行ってきた区民運動会の種目を見直し、平成19年から防災運動会として実施されているもので、参加者らは赤組と白組に分かれ、バケツリレーなど防災に関する競技5種目を競い合いました。



**5月22日(土)**  
**「とこなめB級グルメ屋台広場」**

昨年に引き続き、やきもの散歩道大駐車場で「とこなめB級グルメ屋台広場」が開かれ、心待ちにしていた地元の人や観光客などで賑わいました。

約20店舗の屋台がおいしそうな匂いを漂わせ、味自慢のラーメンや焼き鳥などを販売したほか、市の特産品にしようと意気込む「鶏飯」「いちじくわらび餅」なども販売されました。この屋台広場は9月まで、第2・第4土曜日に開かれます。



**5月15日(土)**  
**「大野アロハピクニック2010」**

廃園の計画がある大野保育園に通う園児の保護者らが「子どもたちの思い出になれば」と企画した「大野アロハピクニック2010」が大野海水浴場で開かれました。好天の中、ウクレレの演奏やフラダンスのほか、自然環境への思いを込めた、ウミガメとのふれあいイベントも行われました。

エンディングでは、大野保育園児によるフラダンスが披露され、観客から大きな声援や拍手が送られました



**5月15日(土)**  
**「初夏を彩るハマヒルガオ」**

初夏の浜辺を彩るハマヒルガオが満開を迎えています。蒲池海岸の砂浜にある群落地ではハマヒルガオの花が一面に広がり、空の青、砂の白と相まって美しい光景を見せています。花は6月初旬まで楽しめます。



**5月13日(木)**  
**「声援を背に」**

常滑競技場で第50回小学校陸上競技大会が行われ、各小学校から選出された児童約300人が参加しました。開会式では、大会記録保持者の竹内博司さん(男子ソフトボール投げ)、下谷環さん(女子100メートル)から激励の言葉が送られました。強風で記録が伸びない中、選手たちは、仲間からの大きな声援を受け、全力で競技に挑みました。



5月9日(日)  
「東海少年少女レスリング選手権大会」

市体育館で第16回東海少年少女レスリング選手権が開かれ、2府6県の34団体に所属する選手496人が熱戦を繰り広げました。北京オリンピックで2連覇を達成した吉田沙保里さんも応援に駆けつけ、選手たちにエールを送りました。



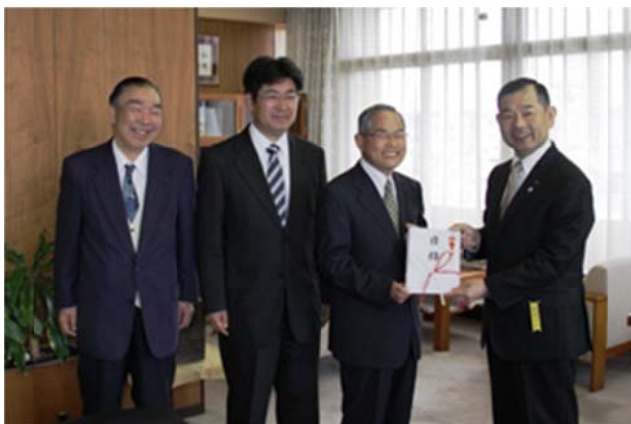
5月3日(祝)・4日(祝)  
「常滑クラフトフェスタ」

今年も、全国からさまざまなジャンルのクラフト作家が集まり「常滑クラフトフェスタ」が開かれました。今回で3回目。主会場の旧常滑高校跡地には、自慢の作品を並べたテントショップが130店舗以上出店したほか、教室を利用した作品展示、コンサートなどのイベントも行われ、2日間で3万人の人手で賑わいました。



4月25日(日)  
「まちぐるみで災害に備える」

「災害から自分たちのまちを守ろう」と、昨年12月に結成された瀬木区自主防災会が防災講演会を開きました。区民など約100人が参加。阪神・淡路大震災での事例を交えた講演の後、災害時に近所で起こる問題について話し合うワークショップが行われ、「この家は独り暮らしだから、大丈夫だろうか」などと話し合い、真剣に取り組んでいました。



4月9日(金)  
「散歩道の景観保全に役立てて」

陶磁器会館運営委員会から常滑市に100万円の寄付がありました。陶磁器会館駐車場の収益金の一部を「やきもの散歩道地区景観保全基金」として寄付するもので、会長の伊奈氏は「これで散歩道が整備されれば、駐車場の利用者にも喜ばれると思う。」と語りました。



## 4月1日(木) 「レインボーハウスオープン」

障がい者向けの就業支援施設「レインボーハウス」が新開町(常滑商工会議所東)にオープンしました。施設に併設された喫茶スペースでは、本格自家焙煎のコーヒーや手作りパンも味わえます。ぜひご利用ください。



## 4月1日(木) 「人口 55,555 人を突破」

1日、市の人口が「5 並び」の 55,555 人となり、この日に転入届を出した人の中から抽選で、村田匡一郎さん一家に、市長から認定書と記念品を手渡しました。村田さんは「13 年ぶりに常滑に戻ってきた。自然も残る常滑での生活は、子どものためにも良いはず。」と笑顔で話してくれました。